コミュニティ活動助成

NPO法人 コミュニティかりば

兵庫県神戸市

自治会等の集会所をNPO支援で「地域の居場所」にする活動

2022年12月に開催した、地域内住民を対象としたアンケート「暮らし・居場所調査」の結果報告会

活動の対象とする狩場台・糀台地域は、兵庫県神戸市西区に位置する西神ニュータウンの一角を成す。糀台エリアには市営地下鉄の起点駅があり、駅周辺には大規模商業施設をはじめ、区役所や警察署、郵便局、基幹総合病院、図書館などが集まる

団体設立経緯

当法人は、地域を支える商業施設「**かりばプラザ**」の空き店舗における休憩スペースの運営、及び集会所の利用申込受付などの事業を受託するため、地域の婦人会、民生委員児童委員協議会、小学校施設開放運営委員会、地域ボランティア団体「アラウンド還暦クラブ」などの中心メンバー16名によって設立、2014年3月に法人格を取得しました。それまで狩場台ふれあいのまちづくり協議会で実施していた、電球の交換・庭の草取り剪定などの「支えあい事業」も継承しています。

地域の核となる商業施設内にある「かりばプラザ集会所」。NPO法人コミュニティかりばが管理者の第3セクターから運営を受託し、活用促進を模索する

活動概要と活動対象範囲

兵庫県神戸市西区の**狩場台・糀台地域**には35の自治会・管理組合（以下「自治会等」）がありますが、そのほとんどが1年交代の輪番制で役員が入れ替わる体制です。高齢化などによる担い手不足や、役員が慣れた頃には交代してしまうという問題で、活動の継続が難しい状況に陥っています。また、自治会等が所有する団地集会所も、利用が少ない状況が続いています。

一方で高齢化が進み、**地域の居場所**の必要性は増してきています。こうした状況の中、当NPO法人は、それぞれの団地集会所を地域の居場所にすることを目的として支援活動に取り組んでいます。

活動に至った理由や背景

狩場台・糀台地域は、1982年の入居開始から40年を迎えたニュータウン地域です。急激な高齢化により、コミュニティーの核となる地域の居場所づくりが課題とされているものの、その担い手は不足しています。ニュータウン内に自治会等が所有する団地集会所が18カ所ありますが、これらはほぼ利用者がなく、有効に活用されているとは言い難い状態です。また、地域の中心となるべき「**かりばプラザ集会所**」も利用が少なく、地域活動を生み育てる役割を担う集会所とすることが課題となっています。

活動内容と成果

（1）全世帯アンケート「暮らし・居場所調査」の実施

2022年7月に、ニュータウンの住民の状況を数値で把握し地域課題を共有するため、当地域の全世帯4200戸を対象に「**暮らし・居場所調査**」を実施しました。1世帯に2枚のアンケート用紙を配布し、入居から40年経過したニュータウンの暮らしや居場所のニーズ、集会所などの施設の認知度や利用状況への回答を求めました。

回収した調査票は1854票、回収率は31%と高く、内容は以下の通りでした。①「地域の居場所」が必要と感じている方が1218名に対して、実際に参加している方は391名と少なく、お世話役として参加可能な方は181名、②地域の中心となる「かりばプラザ集会所」について、利用経験なしの方が81%・1508人、その存在すら知らない方が7%・128人、「団地集会所」は、利用経験なしの方が74%・1370人、その存在すら知らない方が5%・101人と、かりばプラザ集会所も団地集会所も利用率が大変低く、あまり使われていない状況が数値で浮き彫りになりました。

9月には調査結果の抜粋・速報版をホームページに掲載し、12月に地域報告会を開催。地域住民など37名の参加がありました。調査協力者である兵庫県立大学の和田真理子准教授（地域経済学）による解析結果の報告があり、それを受けて活発な質疑も交わされました。

その後、解析結果報告データも含めたすべての調査結果をホームページに掲載し、調査の成果全体を地域および行政を含む関係者で情報共有できるようにしています。

当調査は、入居から40年経過後の地域の状況を把握した、初めての本格的調査となりました。住民のニーズを明らかにすることができ、関係者の理解や協力を得るための強い後押しとなりました。

（2）「かりばプラザ集会所」の公民館的・コミュニティセンター的運営の実現へ

当集会所は、ニュータウンを開

7月、地域内にある4200世帯を対象としたアンケート調査の準備。手分けして調査票を封入した

地域集会所の運営を担う人材を掘り起こすため、「地域ボランティアを考える集い」を開催した

発した神戸市が建設し、第3セクターの株式会社こうべ未来都市機構が管理・運営を担当しています。現在、利用申込と料金収納については当NPO法人が受託し、地域内の窓口で対応しています。当法人の受託以前は、「かりばプラザ」にあるスーパーマーケットで申し込んだ後、銀行窓口で支払うなど、地域の方々には使いにくい状態でした。

こうべ未来都市機構の業務範囲はハード面の管理・運営であり、各種講座や教室、セミナーなどのソフト面の企画や、同好会や自治会等の地域団体の寄り合い所となるコミュニティセンター的な運営までは含まれていません。当NPO法人が常駐して運営を担う目的として、こうした地域のニーズを吸い上げて対応し、地域活動を活性化することが挙げられます。

4月から申し入れ協議を続けてきた結果、①地域コミュニティの核となる「かりばプラザ集会所」の利用の増進、②そのため、スマートフォンに対応した部屋の空き状況の検索から申し込み、料金支払い、部屋の利用までをワンストップで可能にするITシステムの導入、③この集会所において必要とされるソフト面の企画運営を当NPO法人が担うことを目的とし、その方向でさらに協議を進めていくこと──以上3点の合意ができました。

②については、こうべ未来都市機構の事業として、23年4月からの試験的運用に向けて準備が整いました。試験実施により費用対効果を検証し、将来的には各々の団地集会所において同様のシステムの採用も視野に入れています。

上記の施策を進めるのと並行して、公民館的・コミュニティセンター的な運営を実現するための人材を当NPO法人で確保・育成していくことも、今後の課題となっています。

(3) 地域の居場所「つどいの場」立ち上げ支援

自治会等の集会所の利用を促進し、地域の居場所とする活動については、神戸市西区社会福祉協議会や地域包括支援センター「西神中央あんしんすこやかセンター」、西神中央東民生委員児童委員協議会、各地区自治会等の協力を得て、担い手を掘り起こすことから着手しました。

その初手として「地域ボランティアを考える集い ―地域ボランティアしませんか～―」と題するイベントを、社会福祉協議会と地域包括支援センターの協力を得て8月26日に開催しました。全世帯4200戸に呼び掛けた結果、地域住民など27名が参加し、2名の地域ボランティアが新たに誕生しました。

次に、各々の丁目で「つどいの場」を実現するため、民生委員の協力が得られた狩場台3丁目において「地域ささえあいを考える集い」を12月10日に開催しました。参加者は22名。その後、23年1月14日、2月14日、3月16日の3回の「つどいの場準備会」を経て、メンバー8名の「**つどいの場『げんきサロン』**」の発足という成果につながりました。ウェル・メロード狩場台団地集会所を拠点として、当面は毎月1回開催し、周辺の人たちを誘い合わせて広げていくとのことです。当NPO法人もしばらくの間、伴走してサポートすることにしています。

集会所の各部屋に電子錠を設置。カギの受け渡しをなくすことで管理を省力化できる

この3丁目では、民生委員を助け高齢者の見守り活動をする「友愛訪問活動グループ」が23年3月に発足するなど、地域活動が盛り上がる機運が見られます。狩場台・糀台地域全域では、小学校区という広範な地域を対象とした「ふれあい喫茶」やつどいの場「花福寿」、あるいは利用者とお世話役が明確な「つどいの場」はありましたが、今回のように丁目地域を対象として、**お互いで支え合う「つどいの場」**の実現は初めてのこととなります。これを先行事例として、他の丁目でも順次取り組みを進めて行きたいと思います。

(4)「団地集会所」の運営支援

7月から8月にかけて、狩場台・糀台地域の自治会・管理組合32団体に向けて、団体の活動状況や団地集会所の利用状況などについてアンケート調査を実施しました。回答率は56%、18団体と低調でした。この理由としては、①当NPO法人が何者かが知られていないことから警戒されたのではないか、②各自治会・管理組合とも役員の任期が1年で輪番制となっていることもあり、団地集会所の概要把握に留まる場合が多かったため、それ以上踏み込んだ調査の各設問に答えにくかったのではないか、と考えているところです。

当初からの予想の範囲内ではありましたので、今後、各団体へのヒアリングや協議が必要と考えています。以下、個々の自治会等からの具体的な反応を抜粋します。

①つどいの場「げんきサロン」を発足したウェル・メロード狩場台団地管理組合：団地集会所の利用料金が銀行振込となっており、手続きの煩雑さや振込手数料が別途必要となるため管理組合員が使いにくい。利用を促進するため、料金無償化の検討に入っている、②他の自治会：当NPO法人に対して、団地集会所の庭の植栽剪定の依頼や、事務作業のアウトソーシングの相談が寄せられています。

●活動に関係する協力団体、行政、住民団体、大学など

【協力団体】認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸／神戸市西区社会福祉協議会／西神中央あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）／西神中央東民生委員児童委員協議会

【行政・第3セクター】神戸市都市局／株式会社こうべ未来都市機構／一般財団法人神戸シティ・プロパティリサーチ

【住民団体】西神中央自治連合協議会／狩場台ふれあいのまちづくり協議会／糀台ふれあいのまちづくり協議会／ウェル・メロード狩場台団地管理組合

【大学など】兵庫県立大学 国際商経学部 和田真理子研究室ほか

課題と解決方策

活動に共通する課題は、①人材の掘り起こしとその育成、②活動を進めるための資金の確保、です。

①については、今年度実践した「考える集い」でアプローチする方法や、幅広く募集して講座を持つ方法などが考えられます。また今年度、神戸市が認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸の協力により初めて開催した「NPO地域貢献活動フェア」での人材の発掘も有効となります。

②については、これも今年度から神戸市が始めた地域課題に取り組むNPOなどに対する補助金などに求めるほか、民間の助成金などを申請する方法が考えられます。さらに最も有効な手立てとして、自ら事業を起こし利用できる資金を増やすことも視野に入れています。

今後の予定

当NPO法人では、上記の活動をベースとして、自治会等へのアドバイザー業務やお困りごとサポート、アウトソーシング受託などの支援策の土台固めにつながればと考えています。

今回支援いただいた当助成事業を契機として、地域住民の生活・活動のベースとなる自治会等の地域団体と連携し、地域の総力を引き出して「安心して住み続けられる地域づくり」を目指します。

特定非営利活動法人コミュニティかりば

2013年11月設立、14年3月法人化／メンバー数:正会員23人、ボランティア会員25人、賛助会員106人／代表者：佐野 正明（さの・まさあき）
●〒651-2272 神戸市西区狩場台 3-9-15 かりばプラザ内
☎080-4646-2552　FAX 078-940-8787　✉comukariba8787@gmail.com
comukariba.sakura.ne.jp/

当法人は、入居後40年が経過したニュータウンの急激な人口減少と高齢化による問題に対応し、生活サポートや交流の場づくりなどを通して「安心して住み続けられる地域づくり」の実現を目指しています。